

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	33
都道府県名	岡山県

【 】
*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	岡山市立竜之口小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	28
児童数	77	76	68	58	73	75	3	430	

研究の概要

(1) 研究主題

「ともに学び合い自分らしさが発揮できる子」
～一人一人が楽しいと感じる授業づくりを通して～

(2) 研究主題設定の趣旨

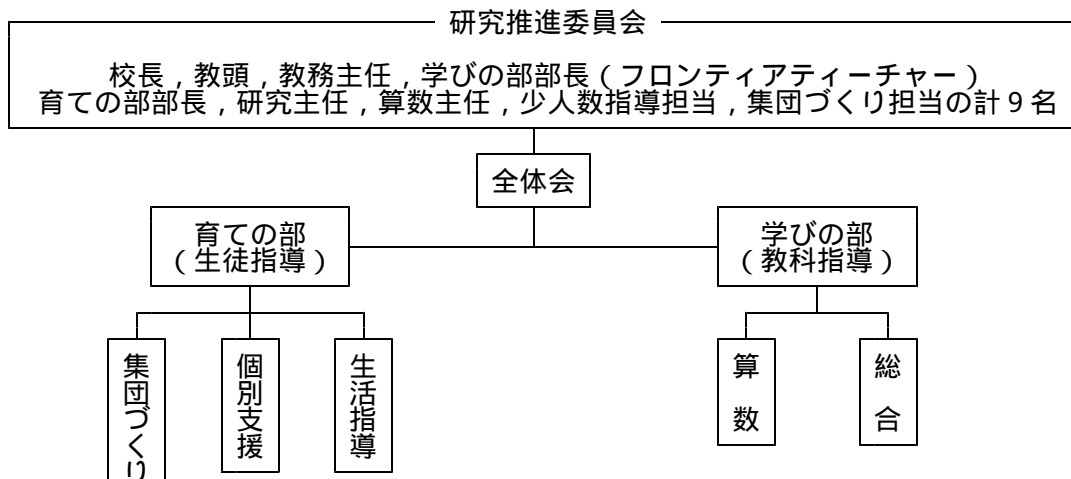
本校の研究は、児童の実態に悩んだところからスタートした。人と関係づくりができにくく自分から関わりを持とうとしない、気持ちの表現が苦手、すぐ投げやりな態度になる、感情のコントロールができにくいなど、精神面・情緒面の問題や、基礎学力が十分に付いていないために学習に対する自信を失っている、学習に対する集中力や根気に欠けるなど、学校全体の傾向としてあり、その対応に追われる毎日であった。

そのために、本校では、「大きな夢 とともに かがやけ」の学校教育目標を受けて、研究主題を「ともに学び合い自分らしさが発揮できる子」～一人一人が楽しいと感じる授業づくりを通して～と置き、他の人に目が向けられ他とよい関係をつくることのできるために、「人を信じ、ともに生きる力」(人間関係力)を育成すること。日常生活に不可欠な力(読み・書き・計算・コミュニケーション力)と前学年までの学習内容、及び、それを基盤としたそれぞれの学年で指導要領に示された学習内容を「基礎・基本」と置き、その定着を図ること(「基礎・基本の定着」)を指導の重点として、算数科を中心に取り組んでいくこととした。

しかし、本校の実態として、人間関係力の育成と基礎・基本の定着を図るためには、児童の心(内面)への支えなしには難しい現状があり、そこで、学びの部(教科指導)と育ての部(生徒指導)の両面から取り組んでいくこととした。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際
 具体的な研究の取り組みとして、算数科で以下の2点を取り上げた。
 問題解決学習の充実

(作業的・体験的な算数的な活動の工夫、及び人間関係力育成のための支援)

	学習活動	教師の支援・指導のポイント
課題をつかむ	問題を知り、課題をつかむ。 ・習っていることと習っていないことに気づく。 ・具体物や半具体物を使って問題場面を知る。 ・問題と似ている体験を話し合ったり、動作化したりして課題をつかむ。 ・条件不備や条件過多の数量等について話し合う。 ・既習と未習を明らかにした上で、学習課題をつかむ。	単元を貫くような課題を単元のはじめに設ける。 ・児童の意識の流れを大切に素材やゲーム、身近な場面を取り上げた問題に心がける。 条件不備、条件過多の問題を与え、内容の過不足を補い完成させる。 穴埋め問題の形式で考えさせる。 ある一定条件を与え、自分で問題を作らせる。 <u>活動、体験を取り入れた課題設定をする。(人間)</u> 問題の場面理解を確実なものにし、既習と未習を明らかにした上で、学習課題をつくりやすくする。
見通しをもつ	結果や解決の方法について見通しをもつ。 ・答を見積もったり、式を考えたりする。 ・何を使ったらできそうかななどの具体的方法を考える。(おはじき、かぞえ棒、線分図、関係図表、実測など)	既習の知識・技能、考え方をもとに、答えの予想や解決の方法について見通しをもたせる。 個々に見通しをもたせるか、一斉に見通しをもたせるかは、児童の実態や学習内容などから考えるようにする。
自力解決	自分なりの見通しをもとに、自分なりの考えをもつ。 ・算数的活動(具体的な操作や念頭操作など)をする。 ・多様な考え方を考える。 ・よりよい考え方を考える。 ・筋道立てた説明の仕方を考える。	自力解決の十分な時間を保障する。(7分~15分程度) <u>作業的・体験的な算数的活動を工夫し、自力解決をさせる。(人間)</u> <u>個に応じた支援をする。(人間)</u> 考えの進まない児童には、ヒントカードや助言を与える。(T2が個別指導をする。) 考えのもてた児童には、よりよい考え方を探ったりその考え方をしっかり発表できたりするように助言する。
練り上げる	自分の考えを一層明確にする。 ・分かりやすく発表する。 ・自分の考え方とくらべる。 ・それぞれの考え方をくらべる。(違う点・似ている点・よりよい点) ・よさに気づく。 ・よりよい考え方や公式などに練り上げる。	<u>発表させる順番について考慮する。(人間)</u> <u>名前カードなどを活用することで、友達の意見と自分の考えをはっきりさせる。(人間)</u> 多様な考えを異同弁別させる。 簡単、的確、明瞭、有用性などから比較・検討させる。 反例(範例)を通して、数学的な感覚を磨かせる。
まとめる	自分の学習課程を振り返る。 ・本時の学習を振り返る。 ・分かったことや思ったことなどを発表したり、ノートにまとめたりする。	学習を振り返り、自分の言葉でまとめができるようにする。(自己評価・自己点検) <u>ただ、めあてに対するまとめを書くだけでなく、友達の意見についてどうだったか、まとめるようにする。(人間)</u> 次時の学習につながるようなまとめをする。 問題から問題へ活用させる。(T2が個別指導する。) 問題から生活へ活用させる。

効果的な少人数指導・TT指導の工夫(個人差への対応等)

*基礎・基本の面から

本校では、児童一人一人が学習の効果を上げるためには、少人数を生かした指導法、指導形態を工夫することが不可欠であると考え、そのために、次の内容を工夫しながら取り組みを進めていくこととした。

基礎・基本となる単元の本質的なねらいを的確につかむ

単元に応じた計画を立てる

児童の意欲を引き出すための教材教具の工夫

一単位時間の授業の展開の工夫

スキルをどのように取り入れていくか

児童の能力に応じた学習をどのように展開するか

少人数指導の形態（本校での取り組み）

- 少人数指導はチームティーチングの一つの型といわれる。TT については、クラスと教師の数で分類する方法と教師の進め方の役割で表す方法で考える。
- ・クラスと教師の数で分類すると - 1クラス2教師，2クラス2教師
 - ・教師の役割で表す方法として -

- 1進1補型： 1人が授業を進行し，1人が個別指導で補助する型
- 2進型： 2人が授業進行に携わっていく型
- 2別2進型： 1クラスを分けて2グループにして2人がそれぞれのグループを受け持ちそれぞれに進めていく型

単元によって TT か少人数指導が固定化して考えるより，児童の実態，単元の流れを見てその中に TT と少人数指導を織り込んでいくことでより個に合った指導が行われると考えた。

□ ... 1教室で全単元を TT で行う。算数のどの単元にもあわせることができる。

指導法の改善と工夫に努めていくことが必要。

□ - 少人数 ... 単元の終末を少人数指導で行う。終末のみ2教室を使う。単元の始めに共通理解すべき内容があつて，学習が進むにつれて理解の差が出てくるもの。更に概念の多い単元に適する。（例）5年：分数の計算など

□ 少人数 ... 単元の後半から少人数指導（2教室）を行う。単元の始めに共通理解すべき内容があり，学習が進むにつれて理解に差の出ているものか，別々の課題で選択できるもの。（例）4年：わり算の筆算

□ 少人数 TT ... 単元の前半を少人数（2教室）で行う。はじめは課題が違っていて，後から共通の土台に乗せていく学習が適している。（例）3年：棒グラフなど

□ 少人数 TT ... 単元の終末を TT 指導で行う。少人数をしっかりとした後で，一緒に学習していこうという指導法である。少ない人数でしっかりと学習していくが最後に学習内容を共通練習していく。はじめから少人数なので，興味関心別の課題が適している。（例）4年：三角形の学習

□ - 少人数 T ... 途中で少人数にする。最初の段階で投げかけて，途中で分かれて別々に課題をし終末で発表しあうなどといった単元の流れがこの学習に適している。（例）3年：かさの学習に適する。最初 dl と出会って，l，ml を課題順序選択学習にしていく。最後にまとめを一緒に行う。

□ 少 T - 少 ... 単元の前半と後半（2教室）で少人数にする。はじめに調べ学習をして，途中で修正したり共通理解したりする。おわりに課題追求という流れとなる。基本は少人数指導だ，が途中で共通理解が「必要という単元に適する。少人数で始めるとき，何かに差があることが前提と考える。興味関心，理解度など何らかの差を認められた時，少人数指導が有効である。（例）4年：角

□ 少人数指導 ... 始めから最後まで少人数指導でやりとおすという指導法。以上，8種類の展開過程で授業をとらえる。

少人数指導グループ分けの観点

機械的 課題別（コース別） 理解度別 興味関心別

それぞれの単元について指導計画をたて，学級担任と少人数担当と相談しながら学習を進めていく。

（3）研究の成果と課題

少人数指導・TT指導について

自分の力を伸ばすためにコースを選択するという意識で学習に取り組めてきた。機械的な少人数指導，興味関心に分けた少人数指導など単元や児童の実態にあった指導形態に取り組めるようになった。

診断テストや振り返りカード，授業のまとめなどで児童が自分の学習を振り返る機会をもつようになった。

家庭への連絡，授業公開などをおこなってきたので，保護者の理解が得られてきている。

9月の文部科学省の「学力向上フロンティア事業にかかわる調査」，学校自己評価の児童アンケート，保護者アンケート，1月の学力検査に表れているように，学校が楽しい，授業が楽しいと感じている児童が増え，学力の向上も見られ，学校に対する保護者の見方もずいぶん変わってきた。

これまで不登校や長期欠席の児童も3年前には，400名余りの児童の中で20名もの数に上っていたが，本年度は12月末現在，実質不登校1名という状態にまで改善されている。学校が，教師が一丸となって取り組めば，児童や保護者は変わってくる。それを実感した1年であった。

（4）研究成果の普及の方策

○平成16年度研究発表会：平成16年10月21日（木）実施予定

○ホームページ：<http://www.city-okayama.ed.jp/~tatus/>にて平成15年度の本校の取り組み、及び研究発表会の内容を公開中

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

多様な形態による少人数指導についての研究